

## 水と共生に

世界が持続的成長を続けるには水はどのようなべきか—をテーマにした「ストックホルム世界水週間 (SWWW)」が9月2日までの6日間、スウェーデンの首都ストックホルム市で開催された。世界130カ国から水の専門家約3300人が集結し、セミナーを含めて約140のイベントや展示が行われた。

### 開会式と基調講演

SWWWを主催するストックホルム国際水協会 (SIWI) のトルグニー・ホルムグレン事務局長は「信頼できる水へのアクセスがなければ、国連が掲げた持続可能な開発目標は、ほぼ達成不可能だ。水利用を可能にするため、われわれは『持続可能な開発のための2030アジェンダ』に向けて水の重要性を保証しなくてはならない」と語った。

「持続可能な開発のための2030アジェンダ」は2016～30年までの国際目標で、15年9月の国連サミットで採択された。貧困を撲滅し、持続可能な世界を実現するために、17のゴール、169のターゲットからなる「持続可能な開発目標 (SDGs)」を掲げ、きれいな水と衛生の確保も含まれている。同事務局長はさらに「水はセクターをつなぐばかりではなく、国家、コミュニティ、そして異なる活動家を結びつけている。水は結合力でもあり、2030アジェンダとパリ協定の発展を支える大きな貢献ツールである」と指摘した。

ストックホルム市のカリン・ワンゴール市市長は、アジェンダを実現するために必要な都市の役割を力説。「都市は将

来の成長に必要な役割の多くの部分を代表している。持続可能な解決策を求める努力は、世界的な成功の鍵であり、将来世代に対する責務でもある」と語った。

また、スウェーデンのマルゴット・バルストロム外相は、水が全ての面でのパートナーであり、SDGs実現の貢献ツールとして「2030アジェンダの水の開発目標 (ゴール6) を成功裏に実現することは、ほかの多くの開発目標、特に栄養改善、子供の健康増進、教育の普及、男女平等、健康都市づくり、健康的な水のエンジニアリング、海洋開発などにわたる成長を支える」と述べた。

経済協力開発機構 (OECD) のアンヘル・グリア事務局長は、「水は今や国

# 持続的成長のため水はどうあるべきか

- ・都市の水管理
- ・渇水と洪水対策
- ・水に関する草の根活動と評価手法
- ・アフリカ諸国向けグリーンウォーター

詳細は、ストックホルム国際水協会のホームページ (<http://www.siwi.org>, <http://www.worldwaterweek.org>) を参照してほしい。

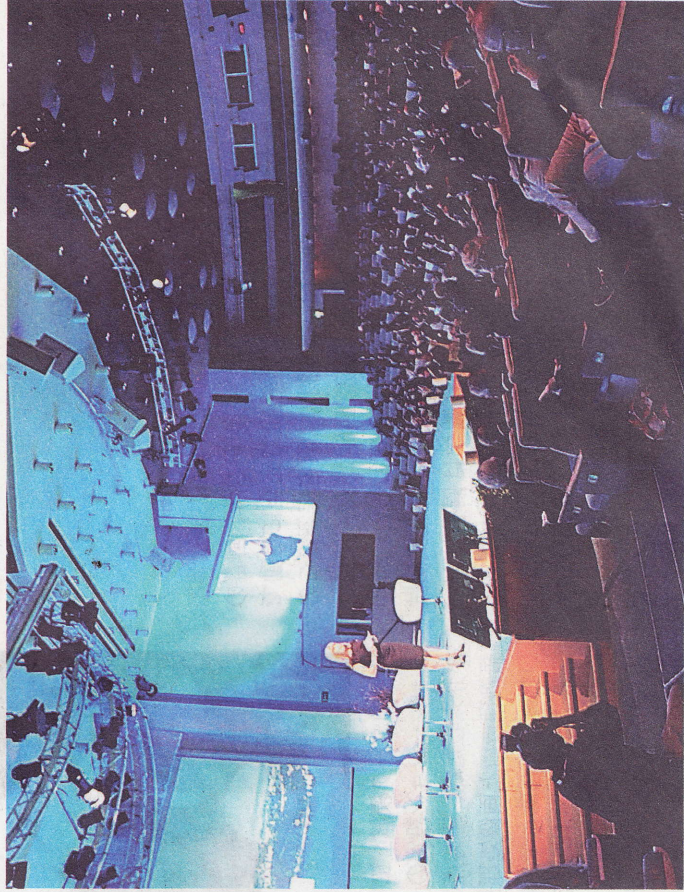
## 世界水フォーラムに向けて

第8回世界水フォーラムは2018年3月18～23日、ブラジルの首都ブラジリアで開催予定で、SWWWでは開催までのロードマップ (表) が討議された。次回フォーラムのテーマは「水の分配」 (Sharing Water) である。

### ■第8回世界水フォーラム

<テーマプロセス>のロードマップ

内容	ロードマップ
テーマプロセスの枠組みの確定	2016年10月
テーマ・課題コーディネーターの選定	12月
トピック・コーディネーターの選定	2017年2月
第2回ステークホルダーコンサルテーションセッション・コーディネーターの選定	4月
セッション・コーディネーターの選定	6月
セッション開催準備	6月以降



ストックホルム世界水週間の開会式の模様  
(日本水フォーラム提供)

際的な最優先事項となるべき状況にある」とした。

### 注目のテーマ

SWWWで特に注目されたテーマは次のとおり。

- ・水の安全保障とレジリエンス (強韌化)
- ・水災害リスクの低減
- ・アジアの水の安全保障と将来
- ・持続成長が可能な水インフラへのフアイナンス

## ノーザンウォーター・ネットワーク会合

ノースウォーター・ネットワーク (NoWNET) 会合は、先進国間で水知識の共有を図り、連携を強めるための会合である。メンバー国・組織は、世界水会議 (WWC)、世界水パートナーシップ (GWP)、デンマークウォーターラム (DWF)、オランダ水パートナーシップ (NWP)、スウェーデン水ハウス (SWH)、フランス水パートナーシップ (FWP)、フィンランドウォーターラム (FWF)、ポルトガル水パートナーシップ (PWP)、スイス水パートナーシップ (SWP)、韓国ウォーターラム (KWF)、日本ウォーターラム (JWF) である。

NoWNETメンバー会合を開催した日本ウォーターラムの浅井重範副ディレクター、朝山由美子マネージャーによると、同会合では次の事項が決定されたという。

- (1) 次年開催のストックホルム世界水週間で同ネットワークメンバーによるイベントを開催
- (2) 技術、ガバナンス、パートナーシップなどにおけるイノベーションを推進し、情報発信・共有を図る
- (3) フィンランド、オランダ、デンマーク、日本の事務局 (日本ウォーターラム) で構成するワーキンググループがア



ストックホルム青少年水大賞を受賞したタイの高校生

(<http://www.siwi.org>から)

プログラム案を作成する

### おわりに

SWWWでは、「水のノーベル賞」と称される「ストックホルム世界水大賞」や「ストックホルム青少年水大賞」の授賞式も行われた。世界水大賞は、米ミシガン州立大学のジョンズ・ローズ教授が

受賞した。ローズ氏は水質と公衆衛生の専門家、水中微生物学の世界第一人者。同大学で水研究に関する寄附講座の教授職にある。青少年大賞は「植物による天然水の効果的な保水方法」を研究しているタイの高校生に贈られた。

今回のSWWWは、特に地域や都市レベルの水政策の実行力や行動規範につい



ストックホルム世界水週間で

いさつするストックホルム市長

(日本ウォーターラム提供)

て集中的に議論された。これは採択が難しいとみられたSDGsやパリ協定が劇的に採択されたように、世界的な視野に立った動きが水分野にも押し寄せてきているともいえそうだ。

来年のストックホルム世界水週間のテーマは「水と排水、削減と再利用」である。(吉村和就)



よしむら・かずなり グローバルウォーター・ジャパン代表、国連環境アドバイザー。1972年荏原インフィルコ入社。荏原製作所本社経営企画部長、国連ニューヨーク本部の環境審議官などを経て、2005年グローバルウォーター・ジャパン設立。現在、国連テクニカルアドバイザー、水の安全保障戦略機構・技

術普及委員長、経済産業省「水ビジネス国際展開研究会」委員、自民党「水戦略特命委員会」顧問などを務める。著書に『水ビジネス 110兆円水市場の攻防』(角川書店)、『日本人が知らない巨大市場水ビジネスに挑む』(技術評論社)、『水に流せない水の話』(角川文庫) など。